

## 令和2年度第4回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会（概要）

- 1 開催日時 令和3年2月4日(木) 15:00～17:00
- 2 場 所 東北森林管理局 2階 大会議室
- 3 出席者 高田委員長、黒瀧委員、小野寺委員、高橋委員、守屋委員、大坂委員、佐々木委員、（安部委員は交通機関の影響により急遽欠席）
- 4 検討結果 現状における原木供給は、素材生産業者が保育作業から原木生産への移行が遅れていることに加えて、12月から1月の大雪の影響により、チップ材を除いて全体的に不足感がでていいる。特に製材用のスギ原木の不足感が強い傾向にあるが、その影響は部分的であり、2月から徐々に供給が回復する見通しとなっている。ただ、慢性的に不足しているカラマツ、マツ類は外材の値上げ等の影響もあり、今後も厳しい需給状況が継続する見込みである。また、製材品の需要動向は回復基調にあるものの、新型コロナ禍の中では、まだ先行きが不透明な状況となっている。  
以上の状況を踏まえ、引き続き、今後の原木供給と製材品の需要動向を注視しながら、原木の供給と調整を機動的に発揮できる体制を継続することを求める。
- 5 主な意見
  - (1) 生産事業者が民有林での素材生産作業に入っているものの、保育作業からの移行の遅れや天候の影響により、出材の増加が例年よりも遅れているが、生産量は徐々に増加する見込みである。
  - (2) カラマツやマツ類は米材等の高騰を受けて引き合いが強く、価格も強含んでおり、この傾向は今後も続く見通しである。
  - (3) 製材工場や一部の合板工場等では材が不足気味であり、11月以降原木の引き合いは強い。一方で製品の引き合いは回復傾向にあるものの、緊急事態宣言もあり、先行きが不透明な中で、価格も弱含んだまま保合傾向となっている。
  - (4) 低質材については、バイオマス用は荷動き、価格とも安定している。一方で製紙用は一部では入荷量の回復が見られるものの、全体には低調で推移している。
  - (5) 輸出に関しては米国向けのフェンス材等及び中国向けの原木の輸出が順調に推移しており、特に中国向け原木価格は強含み傾向にあり、輸出に向けた動きが活発化している。
  - (6) 立木販売の搬出期限の延長、システム販売の納期繰り延べ、森林整備事業の代替発注等の今年度実行された供給調整対策には生産側、流通側とも効果を感じており、感謝している。原木不足に対しても、国有林材販売のための除雪を一部で行っていたが、引き続き柔軟に対応していただきたい。